

あとがき

『中国最高指導者 WHO'S WHO 2013-2018 年版』がようやく出版の運びになった。

日本出版界は活字離れの風潮の中で長年苦しんできたが、一昨年からはさらに世界的な経済不況、昨年からは尖閣諸島に端を発した日中間の摩擦増大で極めて深刻な苦難の道を歩んでいる。中国関連図書は「嫌中」ムードの中で氣息奄々たる有様である。このような情勢下で蒼蒼社が敢えて本書の刊行を決意されたことに、心からの敬意を表すものである。

この『中国最高指導者 WHO'S WHO 2013-2018 年版』は私も共同編集者に入っているが、事典の本体は私でなく「21世紀中国総研」編集陣の努力の賜物である。私はこれまで中国人事の調査・分析をする度に、各指導者の略歴や各指導者間の関係を調べる必要が生じ、その度に各指導者の略歴から入手し得る限りの関連工具書（学習や調査・分析などの作業を行う際に用いる辞書形式にまとめられた書籍を指す。日本の参考書に相当）を集め、調査・分析の資料としてきた。しかし、中国の指導者は数人・数十人の単位でなく、しかも最近では毎年の新陳代謝が激しく長くて5年、短いと2～3年で更迭の場合も珍しいことではなくなっている。そのため、人事に絡む発表の度に「工具書」の山の中から関連がありそうなものを引っ張り出し、あれこれと突き合わせて略歴をまとめ、さらに各人の関連を漁るのが慣例行事になっている。このような作業を何十年と繰り返す中で、私はこれらの数多い「工具書」の中身が一つにまとまり、エクセルなどによる検索・分類操作が簡単に行える「電子書籍化」を実現させられないかと常々願ってきた。しかし、あれこれの資料から200名ほどの簡単な中共中央委員一覧表を作成する場合でも、これらの資料から関連資料を探しあて、分類し、形式を揃えるという単純な、しかし神経を使う辛気臭い作業を延々と続けなければならない。また、このような作業を完成させても決して報われることがないことを知っている身として、このようなことは単なる「願望」、「画餅」と諦めていたのが実際である。

中村蒼蒼社社主兼21世紀総研事務局長から「中国人事データベース」

の立ち上げを相談され、念願の夢が実現する希望がふくらんだ。もちろん、「道遠くして思い半ば」で「データベース」の拡大・充実化への願望は留まることを知らない。しかし、文明の利器を利用することで「データベース」の内容は長足の進歩を遂げている。これら資料を「CD」あるいはネットを通すことで、読者諸兄姉のパソコンにお届けすることができるなら、中国人事に関する研究が「電子化」によって迅速化されるだけでなく、範囲も拡大し、深まるだろう。「データベース」は人事だけでなく、主要事項の日誌や重要事件の関連資料、主要基礎資料もすべて網羅したものにすれば、中国問題研究での資料はこの「データベース」一つでほぼ揃うという、チャイナ・ウォッチャーにとって「夢のまた夢」の実現すらも可能となろう。

本書の出版は一大壮挙の嚆矢として、大きな夢の実現のための第一歩となるものである。私自身も今後、このデータベースを駆使し中国人事分析を行うことを楽しみにしている。

高橋 博